（一社）沖縄県中小企業家同友会　広報誌

# ニライみらい

2026年（令和8年）10月号　463号

21世紀に輝く No.255

## 「人と企業の有意義な出会い」で活気ある未来を創る

### 今月号の目次

1・2面　21世紀に輝く【㈱Cavitte（キャビット）】
3面　新会員オリエンテーション・茶論
4面　県例会
5面　青森文化交流・八重山支部新会員歓迎会
6面　支部対抗ボウリング・中部支部ランチ会
7面　浦添・那覇学習会・碧の会学習会
8面　南部支部学習会＆会員訪問
9面　北部支部じんぶん塾
10面　那覇支部経営基礎講座
11面　経営指針作成講座
12面　うりずんトリセツワーク・ゆいピッチ
13面　同友会大学1・2講
14面　だっからよ～【クリーン・コネクト㈱】
15面　広告
16面　わが社のポリシー【㈱大栄コンサルタント】

同友会ってどういう会？

魅力動画　入会申込フォーム　行事案内　Facebook

〒901-0152
沖縄県那覇市字小禄1831番地1 沖縄産業支援センター603号
☎098-859-6205(代) FAX.098-859-6208
http://www.okinawa.doyu.jp
E-mail:doyu@okinawa.doyu.jp

# 「人と企業の有意義な出会い」で活気ある未来を創る

21世紀に輝く No.255

粟国 傑 氏

## ■社名に込めた想いと起業の原点

社名「キャビット（Cavitte）」は、企業理念である「Creating a vibrant future（活気ある未来を創造する）」の文字を組み合わせた造語です。人と企業が共に成長し、活気ある未来を創りたいという想いを込めています。

元々はホテル業界でフロント職としてスタートしましたが、適性を見出されて人事部門へ異動。テラスホテルズや沖縄コカ・コーラボトリングなどで約十四年間にわたり人事を経験しました。沖縄の中小企業には、人事専門の部署のない企業が多く、これまでのキャリアを生かし、採用難や人手不足に悩む企業をサポートしたいという想いから、二〇二〇年五月に父の法人を引き継ぎ、人材サービス事業を始動させました。

## ■採用代行（RPO）と「定着・育成」への伴走支援

メイン事業である「採用代行（RPO）」では、求人広告の掲載にとどまらず、企業の中に入り込んで採用活動全般を伴走支援します。求職者の選択肢が多い現代において、選考スピードや面接での魅力付け、オファー対応などを総合的に高めることが採用成功には不可欠と考えています。

一、新入社員を迎える既存社員の体制やマインドセットを整える。

二、入社一～三ヶ月ごとの習得目標を明確にし、指導のバラつきを防ぐ。

三、スタッフを巻き込んで業務をマニュアル化し、教えやすい仕組みを作る。

「採用して終わり」ではなく、入社後の定着や育成まで見据えた環境整備に注力しています。さらに、日常の悩みに応える月額制サービス「人事サプリ」や人材紹介、コンサルティングなど、企業に合わせた支援を提供しています。

## ■同友会での学びと新たなコラボレーション

同友会には知人の紹介で入会し、約五年間役員を務めてきました。最初はよくわからないまま役員を引き受けましたが、経営のリーダーたちと議論を重ねる中で、同友会は単なる異業種交流ではなく、顔を出し信頼関係を築くことで真の繋がりが生まれる場所だと感じています。実際、医療・福祉領域に強い若手会員とタッグを組み、自社の採用ノウハウと相手の専門ネットワークを掛け合わせた新事業に挑戦中です。

特に「同友会大学」には興味があります。沖縄の歴史や経済の構造・文化に触れる機会がこれまでなかったので学んでみたい。地域の歴史や文化を学ぶ機会も含め、互いの強みを活かした地域貢献を目指しています。

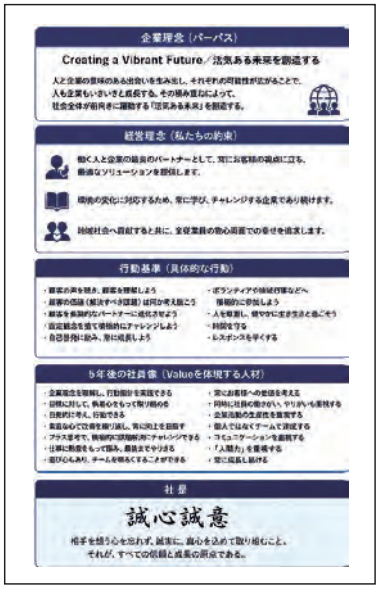
## ■今後の展望と経営で大切にしていること

経営の根幹にあるのは「顧客に価値を提供すること」です。企業の課題解決だけでなく、求職者にとっても有意義な出会いであるかを常に意識しています。

今後は、まず「沖縄で一番頼られる人材サービス」を目指します。さらに県外企業との連携による全国展開など多様な働き方に対応した支援の拡大も見据えています。AIが進化しても、企業の中心にあるのは常に「人」です。経営者が「人」に向き合うきっかけを作り、企業と地域全体の発展に貢献していきます。

将来に向けての夢を熱く語ってくださった粟国さん、同友会での学びを実践に落とし込んで、ますます飛躍することを期待しています。

（（同）Green Star OKINAWA　友寄利津子）




**《会社概要》**

**㈱ Cavitte（キャビット）**

代表取締役 **粟国（あぐに） 傑（すぐる） 氏**

〈浦添てだこ支部〉

所在地／浦添市字伊祖2-15-8-1 伊祖ビル203

ＴＥＬ／098-975-7920

事業内容／人材サービス業（採用業務代行、求人広告代理店など）

# 8月 新会員オリエンテーション

ミニグループ討論

具志 直人 支部長

金城 隆子 副支部長

大城 章 経営委員長

新会員のお二人

新里 雅樹 氏（JINBUN 代表）

比嘉 秀智 氏（丸正印刷㈱ 取締役常務）

八月二十日、与那原町商工会にて八月新会員オリエンテーションが、サンライズ支部の設営で開催され、新会員二名を含む十二名が参加しました。

第一部は、具志直人サンライズ支部長（ちゅらら工房㈱ 社長）の挨拶でスタートし、「同友会の歴史と理念」は座間味亮代表理事が、「会員の体験報告」具志支部長が担当しました。具志支部長は、社員教育や共同求人など、同友会をフル活用して、会社に取り入れている経験を紹介し、よい会社づくりへの自社の取り組みを報告しました。その後、バッジ贈呈と自己紹介が行われました。

第二部は、「企業変革支援プログラムの体験と解説」でスタート。金城隆子副支部長（㈱プログレス31 社長）が、自社の立ち位置がわかる、プログラムを活用しての体験を話し、大城章経営委員長（㈲）グラッド）が、プログラムの全体像を分かり易く解説しました。

グループ討論では、「経営の悩みをどのように解決しますか」をテーマに、それぞれの自社の経営課題と向き合うことができました。

（事務局）

## 茶論

青森県中小企業家同友会の上十三（かみとうさん）支部と八重山支部が「姉妹支部」であることをご存じですか？きっかけは二〇二二年七月に沖縄で開催した中同協総会後のビーチパーティーで、八重山のメンバーがナンパしたこと▼その後、合同例会や「さきしま経営フォーラム」、石垣の「島の子ども応援まつり」等で交流を重ねて、昨年十月に青森で開催された障害者問題全国交流会（障全交）の際に「友好姉妹支部」を締結しました▼その縁でこの夏、青森県で二つの祭りを観ることができました。家族やゲストを含めて八重山から八名、本島から六名が参加しました▼「八戸三社大祭」は、八戸市で毎年七月三十一日から八月四日まで開催されます。およそ三〇〇年の歴史があり、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。神話や歌舞伎を題材にした巨大な山車が約二十七台運行し、仕掛けによって縦横に大きく広がるのが特徴です▼「青森ねぶた祭」は、毎年八月二日から七日まで青森市で開催される東北三大祭りのひとつで、幅約九m、高さ約五mの巨大な人形ねぶた（山車）と共に、「ラッセラー」の掛け声とともに跳人（はねと）が市内中心部を練り歩きます。私は見物しましたが、沖縄のメンバー十名が跳人として祭りに参加しました▼上十三支部の皆さんに、送迎、場所取り、懇親会など大変お世話になりました。地元を愛し、誇る気持ちとホスピタリティに感動して、この夏一番の思い出となりました。

（宮城光秀）

# 7年ぶりに県例会を開催！
# 「人を生かす経営」でよい会社づくりを
## ～一人ひとり輝く、働きがいあふれる組織へ～

座長の 普天間 直樹 氏

宮城 光秀 氏

八月十二日、七年ぶりとなる県例会が開催されました。沖縄産業支援センターを中心に、サテライト会場も含め、全支部から一〇七名が参加しました。

報告者は、沖縄同友会代表理事で、㈲大宮工機の宮城光秀社長。「『人を生かす経営』でよい会社づくりを～一人ひとり輝く、働きがいあふれる組織へ～」をテーマに、経営者の覚悟と実践を報告しました。

### ■混沌からの脱却と同友会での学び

㈲大宮工機の宮城光秀氏は一九九七年に入社しました。当時は家族経営で休日は日曜日のみ、経営指針はなく、混沌とした経営状態でした。転機となったのは、一九九九年の同友会入会です。役員就任や経営指針作成講座を機に、企業経営と同友会運動を車の両輪とする「不離一体シート」を作成し、自社の変化を可視化しました。二〇二一年の代表就任時に直面した赤字を乗り越え、看板商品である濁水処理装置の需要を掴むことで、見事に業績をV字回復させました。

### ■環境・IT・障害者雇用の三つの特徴

同社は「環境経営」、「ITの活用」、「障害者雇用」の三つの特徴を強みとしています。赤土流出を防ぐ濁水処理装置のレンタルに連動させ、十年以上前から継続して、レンタル一回につき一本のサンゴ苗を移植しています。また、膨大な小型工具の管理にICタグを導入し、顧客自身がWebで現場の在庫を検索できる画期的な受発注システムも構築しました。障害者雇用においては、二〇〇九年の施設外就労から開始し、丁寧な機材整備を任せることで、今や会社に欠かせない戦力へと育て上げています。

### ■人に制度を合わせた個別対応

宮城氏が経営において大切にしているのが、「制度に人を合わせるのではなく、人に制度を合わせる」という個別対応の精神です。引きこもりや突然の休職など、多様な問題に対しても、本人の「働きたい」という意志を尊重した個別対応を徹底しています。また、年間休日や残業時間などの労働環境も改善され、他社から羨まれる高い定着率とバランスのよい年齢構成を実現しています。

グループ討論

会場全体

### ■例会で学び、描く未来

宮城氏は例会を中心とした同友会運動を通じて自社を振り返り、課題を解決し続けています。現在は全社員と共に「一〇年ビジョン」を策定し、地域とともに、次の世代へと未来をつなぐ挑戦を続けています。

参加者は、経営体験報告とグループ討論で自社を振り返ることで、人に制度を合わせる「個別対応」や経営指針の実践による成長を学ぶことができ、とても有意義な例会となりました。

（㈱沖縄環境科学研究所　髙柳圭吾）

## 八重山支部 上十三支部 文化交流会

# 八戸三社大祭・青森ねぶた祭を訪ねて

八月一日から三日まで、沖縄同友会の仲間とともに青森県を訪れました。今回は、八重山支部の姉妹支部である青森同友会上十三（かみとうさん）支部有志のメンバーと、八戸三社大祭、青森ねぶた祭という東北を代表する祭りを体感してきました。

初日はあいにくの雨でしたが「八戸三社大祭」を観覧しました。豪華絢爛な何十台の山車や老若男女が太鼓や笛を奏でながら街を練り歩く姿は圧巻でした。

今回特に印象に残ったのは、祭りそのものの華やかさだけではなく、祭りを支えているのは、そこで暮らす地域の人々です。長い時間をかけて準備をし、子どもから大人までが参加し、世代を超えて文化を受け継いでいく。その姿を見て、「地域をつくるのは、結局は人なのだ」と強く感じました。

二日目は青森市へ移動し、夜はいよいよ「青森ねぶた祭」です。実際に祭りの衣装に着替え、跳人（ハネト）として参加しました。「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声とともに、大勢の人が一つになって街を練り歩く。見る祭りと参加する祭りでは、感じるものがまったく違います。地域の方、観光客、そして私達のような多くの参加者が、同じ輪の中で共に踊り、声を上げ、一体感を作り上げる力が、「青森ねぶた祭」にはありました。

ねぶた祭りへの参加者

盛り上がった懇親会

今回、二つの祭りを体験して考えたのは、地域文化と地域経済は切り離せないということです。祭りが人を呼び、人々が宿泊、飲食、買い物をする。そこに仕事が生まれ、地域の企業が潤う。そして企業や地域住民が祭りを支える。この循環が、地域の魅力をさらに高めていきます。

私たちが暮らす沖縄にも、エイサーや豊年祭、ハーリー、八重山のアンガマをはじめ、各地域に大切な文化があります。それらは単なる観光資源ではなく、地域の人々をつなぎ、「自分たちの地域を自分たちでつくる」という意識を育てる大切な財産なのだと思います。

中小企業も同じではないでしょうか。地域に根を張り、雇用を生み、人を育て、地域の文化や暮らしを支えていく。自社だけが良くなればいいのではなく、自社に係る全ての企業が元気になることで地域が元気になり、地域が元気になることで企業も地域も成長できる。

青森の熱い祭りと、それを支える人々の姿から、私達、中小企業が地域に存在する意味と使命を改めて考えさせられた文化交流会でした。（ナカマホーム㈱　仲間光）

## 八重山支部 会員交流＆新会員歓迎会

# 「経営を本音で話し合える団体！」

「新しい」と聞くとなにやら興味が湧いてきませんか？ましてやそれが支部の新会員ともなれば、まずは会ってみたいと思うもの。八月二十二日に八重山支部で開催されたのは、新会員さんの「同友会って何？」に答えつつ、さらにゲストさんも参加しての会員交流＆新会員歓迎会でした。

この日は会場にたどり着くのもなかなか至難な土砂降りの荒れ模様。「こんな日に飲み会に集まる人は、本物のお酒好きだよね」なんて軽い雑談を交えつつ、新会員二名、ゲストさん四名を迎え、和やかに酒好きの会が始まりました。

会のスタートの乾杯は、沖縄本島から駆けつけて下さった副代表理事の石原地江さんから。「同友会は、会社の規模の大きい小さいは関係ありません。売上や業績が好調なのか不調なのか、そして政治的なしがらみ等々にも一切左右されずに、フラットな関係でお互いの経営のことを本音で話し合うことが出来る団体です。」わかりやすくシンプルな挨拶と乾杯、そしてそこにおいしいお酒と料理が足されるならば、賑やかに会話が進まないはずがありません。

全員でポーズ！

印象的だったのは会の途中でのゲストさんからのひとこと「これまでもいくつかの団体に加入して、いろんな活動をしてきました。しかしそこではお互いの経営の内容を話し合うことはほとんどなかったことに、今日気付かされました。」このひとことが、これまで当たり前のように会員同士でやり取りしてきたことの大切さに、改めて気付かせてくれました。会が終わっても止まない土砂降りの中、まだまだ話足りない皆々様は、次なる話せる場へと自然と流れて行きました。（有）ＰＬＡＮｔＰＬＡＮ　宮良高彰）

## 支部対抗 ボウリング大会

# 五支部から三十名が参加！ チーム優勝は南部支部

八月十四日、てだこボウルにて、浦添てだこ支部の呼びかけで、支部対抗ボウリング大会が開催され、浦添てだこ支部、那覇支部、南部支部、中部支部、サンライズ支部の五支部から、十チーム三十名が参加しました。

チーム優勝は南部支部で、二ゲームトータルの個人優勝は、島袋正貴氏（島袋木工所）の３１３点、一ゲームのベストスコアは、當間哲也氏（㈲バージョン）の１９７点でした。また、女性でのトップは、阿嘉久美子氏（アントレ）で二ゲームトータルは２５７点でした。

（事務局）

女性でトップの 阿嘉 久美子 氏（右）

優勝した南部支部

## 中部支部 きむたかランチ会

# 相談できる環境がある安心感！

中部支部は三つのチームに分かれており、チームごとにランチ会形式の役員会を定期的に開催しています。きむたかチームは隔月開催で、今回は八月十七日にうるま市の「萬龍飯店」にて開催され、五名の会員が参加しました。ランチ会本来の目的は、各チームが担当する部会例会の進行や役割分担を決めることですが、きむたかチームでは毎回、情報交換に費やす時間の方が本来の役員会よりも長くなるのが恒例です。

少人数だからこそ、経営内部の悩みや金融機関とのやりとり、今後の事業ビジョンへの率直なフィードバックまで話題にのぼります。台風への備えについても、停電時の対処法や過去の経験から得た教訓が共有され、聞いているだけで自社のヒントになると感じました。何か困ったときに相談できる環境があるという安心感こそが、私にとってこの場の一番の魅力です。

肝心の役員会では、台風の影響で延期となっていた金融機関とのコラボ例会について、日程や役割分担の調整が行われたほか、十一月に予定する会員企業視察についても、チームごとではなく支部全体でのバスツアー化を検討することになりました。また、市町村への提言書についても、会員の要望をもとにとりまとめていくことが話し合われました。

事業の話にとどまらず、経営の本音を語り合い、互いに学び合えるランチ会。次回もこの時間が待ち遠しいです。

㈲がじまる印刷　与儀しのぶ

集合写真

## 浦添てだこ支部・那覇支部 合同学習会

# 今、あなたの会社の状態は？ 自社の経営を自己診断しよう

當銘 将也 氏

八月十八日、沖縄産業支援センターにて、浦添てだこ支部と那覇支部合同で、企業変革支援プログラムVer.2の学習会が開催され、十五名が参加しました。

講師は、㈱フォーカスの當銘将也氏（経営副委員長）。企業変革支援プログラムは、自社の現状を客観的に把握し、経営上の課題を明らかにするとともに、よりよい会社づくりに向けた取り組みにつなげていくためのツールです。

学習会では、実際にプログラムを活用した事例も紹介されました。ある企業では、現社長が専務時代に社員と一緒に取り組み、その結果をもとに現状と課題を分析。その中で、会社の正確な数値や社会的責任について社員みんなで共有する必要性に気づき、経営者となる自分自身の覚悟を持つことができたそうです。

経営者だけで自己評価するのではなく、社員と一緒に取り組むことで、それぞれが感じている会社の現状を数値化し、グラフなどで「見える化」することができます。経営者は「できている」と思っていても、社員から見ると十分ではない――。そうした認識の違いに気づくことが、企業変革の出発点になります。また、課題が見つかった際には、「売上を増やそう」「利益を上げよう」と結果だけを追うのではなく、「なぜ売上が減ったのか」「なぜ利益が出ないのか」と原因を掘り下げることが重要であるとの話がありました。

さらに、経営理念、十年ビジョン、経営方針、経営計画をつなげて考えることの大切さについても学びました。十年先の「こうありたい」という姿を描き、それを実現するための方針や計画へ落とし込むことで、日々の経営が目指す方向を明確にすることができます。

挨拶する 友寄 利津子 氏

参加者にとって、自社の現状を見つめ直し、よりよい会社づくりへの新たな一歩を考える学習会となりました。

（事務局）

---

## 碧の会

# 経営指針シェア会&グループワーク研修会

七月三十日、沖縄産業支援センターにて、女性経営者部会「碧の会」は、経営委員会と例会委員会のコラボ企画として、「経営指針シェア会&グループワーク研修会」を開催し、二十七名が参加しました。

はじめに、知念礼子氏（琉球ゴールックス社長）より、経営研究フォーラムでのグループワークに向けた講義が行われました。

「経営指針体験シェア会」では、知念由紀氏（中村印刷、社長）、金城隆子氏（プログレス31、社長）、高木美香子氏（㈱ビジネススタッフ、社長）の三名が登壇。経営理念やビジョンをつくり、実践してきた経験を報告していただきました。

知念氏は、「十年後、こうなっていたい」という思いを十年ビジョンに詰め込み、目標を一つひとつ実現してきた経験を紹介。金城氏は、環境整備を通じた意識改革とともに、「理念があるからこそ経営の軸がブレない」と、理念を持つことの大切さを語りました。高木氏は「関わる人みんなが幸せになる経営」を掲げ、理念をつくって終わりにせず、周囲と共有し、発信し続けることの大切さを伝えてくださいました。理念があるからこそ迷ったときに立ち返ることができ、日々の経営や行動につながっていることを感じました。

知念 由紀 氏

金城 隆子 氏

髙木 美香子 氏

後半は「あなたが理想とする会社はどんな会社ですか？」をテーマにグループワーク。こんな会社にしたいという思いや、社員と一緒に成長できる会社にしたいなど、活発な意見が交わされました。

今回の研修を通して、経営理念は会社の「軸」、ビジョンは未来へ進むための「道しるべ」だと改めて実感しました。理念を掲げるだけでなく、その意味を理解し、社員と共有しながら実践していくことの大切さを学びました。

（㈲大宮工機 玉城まき子）

## 南部支部　求人学習会

# 価値観の共感・探求を共有する「理念採用」が重要

西川 利明 氏

七月二十九日、南風原町中央公民館で南部支部求人学習会を開催し、十二名が参加しました。近年の社会課題となっている人手不足をどう対応していくかを会員と共に考える機会となればと企画しました。

講師は南部支部会員のイコールパートナー㈱代表、西川利明氏にお願いしました。西川氏はセリオーレ沖縄のパートナーコーチや一般社団法人PM協会理事（人事責任者）も務めており人事の相談に応じています。現在の求人状況は、依然として厳しい中で、採用するためには、会社情報を事細かに載せることが重要になってきます。入社が目的ではなくマッチングを目的として「息をするように働ける職場」「生きがいを感じられる仕事」が職場環境になっているか、働く理由に対して関心を持ってやり直しができる選択肢を与えているか、そのような自由度のある職場づくりが必要です。

そこで「理念採用」が重要だと語っていました。なぜ存在すべき会社なのか価値観の共感・探求を共有していけるかを説明して、確認を得てから採用しないと離職につながってしまう。同友会が掲げる経営理念を伝えることを学びました。

また、採用に関する求人票の見せ方や広告も教授いただき、万人に向けて採用を呼び掛けるのではなく、どんな人の目に留まって欲しいか　尖った広告をする必要を習いました。例えば配送兼営業と記載して募集してもそれだけではイメージが湧きません。子どもの見守り配送と名付けると、学校に配達するんだと業務が理解してマッチングもよくなる事例を紹介いただきました。SNSは入社意欲を高めるツールで活用して会社の雰囲気を伝え、一緒に働きたいと思わせることが大事で、インスタグラムをおすすめしていました。

集合写真

南部支部では会員の声を聞きながら未来を見据えた様々な学習会を企画し会員同士で学びあう機会をつくります。

㈲たけ事務　竹　富久）

## 南部支部　毎月2回の会員訪問

# 今年度は仲間づくりと会員訪問を同時に

南部支部では毎月二回会員訪問をしています。目的としては、普段あまり参加できていない会員さんを訪問し、直接情報交換することで、会員さんが抱えている課題や取り組んでいることを共有し、支部の運営に活かすことにつなげています。今年度は仲間づくりと会員訪問を同時に行い一五〇社会勢へ目指していきます。県全体でも今年度から会員訪問委員会が立ち上がり会員訪問に力を入れています。

八月は糸満市と南城市の会員さんを訪問しました。仲間づくり対象として、てぃーだ観光の崎原まゆみ氏にお会いして同友会入会への案内をしました。崎原氏は毎年同友会大学の講師を務めています。また、会員訪問は海邦ベンダー工業の登川将光社長にお会いしてお話を伺い有意義な時間となりました。金属加工を本業としていますが新たな事業として宿泊事業もあり、番組のロケ地としても使用されており多角経営を学べました。

PSコンサルタンツの
知念社長と（中央）

南城市は新会員対象として伊世開発を仲間づくり訪問しました。同友会には興味を持っているとのことで九月十六日に行われる輝く女性経営者の集いを案内しました。会員訪問は輝水の新垣大輝社長とPSコンサルタンツの知念秀和社長を訪問して情報交換しました。新垣社長は二十代にして社長就任し、初めての経営発表会の日に訪問しました。知念社長からは、社員さんが倒れて麻痺が残り業務に支障が出ていて、どのような対応したらと悩んでいたので、南部支部が企画した「障がい者学習会」にお誘いして参加いただきました。

会員訪問を通して、会員と共に学び・成長する南部支部　進化しつづける南部支部になれるよう築いていきます。

㈲たけ事務　竹　富久）

## 北部支部 やんばるじんぶん塾

# オープンデータを生かして、地域の「稼ぐ力」を高める！

佐竹 正範 氏

九月四日、名護産業支援センターにて、北部支部「やんばるじんぶん塾」が開催され、二十五名が参加しました。「オープンデータでエリアマネジメントへの挑戦～データで切り開く、稼ぐ観光まちづくり～」をテーマに、（一社）沖縄やんばるＤＭＯのＣＭＯ佐竹正範氏に報告していただきました。

佐竹氏は、「稼ぐ観光」の主語は行政やＤＭＯではなく、地域の民間事業者であると説明。そのためには、まず地域を訪れる人の実態を知ることが重要だと話しました。福井県では、宿泊予約や観光客へのアンケートなどのデータを収集・可視化し、オープンデータとして共有することで、地域の事業者が商品・サービスづくりやプロモーションなどに活用できる仕組みづくりに取り組んできたそうです。データを分析するだけでなく、実際のビジネスにつなげることの重要性が紹介されました。

現在、北部十二市町村でも「やんばるハッピーアンケート」を実施し、観光客の属性や旅行形態、訪問先などのデータを収集。プラットフォーム「Ｙａｍ－Ｄ（ヤンディー）」で可視化・公開し、地域の共有財産として事業者にも活用してもらう取り組みを進めています。それぞれの事業に生かしながら連携することで、地域全体の価値を高めていく考えが示されました。

その後のグループ討論では、「オープンデータを活用し、自社のビジネスにどう生かしますか？」をテーマに意見交換。宿泊客の国籍や動向を商品の仕入れや売り場づくりに生かす案をはじめ、農業や飲食業、印刷業など、それぞれの事業とデータを結びつけた具体的なアイデアが発表されました。

質疑への回答では、福井県の道の駅が周辺施設の予約動向を参考に生鮮品の仕入れ量を調整し、利益率の向上につなげている事例も紹介されました。データを継続して活用することで、適切な仕入れ量を見極める感覚も培われると説明しました。

今回の勉強会を通して、オープンデータは単に地域の現状を知るための数字ではなく、使い方次第で自社の仕入れや商品開発、集客など、具体的な経営判断につなげられることを学びました。業種を越えてデータを活用し、また情報を共有することが、地域と企業双方の成長につながる可能性を感じる勉強会となりました。（㈱アイランド・プロジェクト 新井章仁）

グループ討論

会場全体

# 那覇支部 経営基礎講座 第1・2講

## 【第1講】
## 会話が弾む♪ミーティング

八月三日、沖縄産業支援センターとZoomを会場に、那覇支部経営基礎講座第一講が開催され、三十名が参加しました。合同会社obst代表社員の野原勝治氏を講師に迎え、明日から使える「会話が弾む♪ミーティング」の進め方を、講義と体感ワークを通して学びました。

野原 勝治 氏

会議で意見が出ないのは、本人のやる気ではなく「場と問い方」の問題かもしれません。野原氏は、いきなり意見を求めるのではなく、まず経験を聞き、その時の感情、そこにある価値観をたどる「認知の四点セット」を紹介。進行役は正解を出したり、話をまとめたりする人ではなく、一人ひとりが安心して話せる状態をつくる役割だと語りました。

グループ討論

会場では、うなずきも目線もない「冷たい場」と、笑顔で大きくうなずく「温かい場」を比較。後半になると相づちや会話が重なり、場の空気が一気にほぐれていきました。参加者からは「大きくうなずいてもらうと、受け入れられていると感じて話しやすい」「意見を受け入れにくい時も、まずうなずいてみたい」との声が上がりました。アンケートでも十九名中十八名が「大変良かった」と回答し、「会議が少し楽しみになった」との感想も寄せられました。

講座で得た学びは、自社の会議で実践することはもちろん、同友会例会のグループ討論をより豊かにするヒントにもなります。互いの経験や思いに耳を傾け、うなずきながら受け止め合うことで、討論が深まり、新たな気づきにつながることも学びました。相手が安心して話せる聴き方から始めていきたいと思います。（㈱プレイバック・シアター研究所・河野信之）

## 【第2講】
## 知っているようで意外と知らないビジネスマナー

國吉 ひとみ 氏

八月二十一日に開催された第二講「いまさら聞けないビジネスマナーの基本のき」では、会場から次々と質問が飛び出し、終始活気あふれる学びの場となりました。経営者から一般社員まで幅広い立場の参加者十六名が集まり、「知っているようで意外と知らないビジネスマナー」について理解を深めました。

講師の國吉ひとみ氏（Well-Being㈱ 社長）は、「マナーとは単なるルールではなく、相手への敬意と思いやりを形にしたもの」と語りました。第一印象の重要性や身だしなみ、お辞儀、名刺交換、来客対応、上座・下座、電話応対など、ビジネスの現場で欠かせない基本を、実践形式で分かりやすく解説しました。

特に印象的だったのは名刺交換です。「名刺はあなたの分身」という言葉に、反省させられました。普段何気なく行っている動作も、実は自己流になっていることに気づかされ、一つひとつの所作や言葉遣いが会社の信頼や評価につながっていることを改めて実感しました。

参加者からは「お辞儀の適切な速度は？」「上座・下座の判断基準は？」「電話応対でトーンを上げるとは具体的にどういうことか？」など、多くの質問が寄せられました。講師は実例を交えながら丁寧に回答し、素晴らしい学びの場となりました。

マナーの〝やり方〟だけでなく、〝なぜそうするのか〟という本質まで学べた今回の講座。次回の経営基礎講座も、明日からの仕事に活かせる学びが満載です。ぜひご参加ください。

（㈱普天間商会　普天間直樹）

第２講の実践風景

# 第62期 経営指針作成講座 修了式

## 22社26名が報告 ～これからが始まり～

会場全体

八月四日、第六十二期経営指針作成講座を修了した報告者二十二社二十六名の発表に、参加者六十五名が熱心に耳を傾けました。

幅広い業務分野、業種など歴史や業界、規模の違いなどがありますが、各経営者は、時間をかけ作成した内容を報告。創業したばかりの会社や個人事業主、また創業四十年に向けて再受講する会社等々、社長だけでなく複数人で受講する会社もありました。

これからの社会変化に対応していくため、地域から頼りにされる強い会社を目指して、社員の成長と会社の発展を目標とした発表になりました。報告者は、「経営理念はまだ固まっていない、十年ビジョンのワクワク感が足りない」などと言いつつも、時間をかけて作成した経営理念→十年ビジョン→経営方針の順で報告しました。報告後は、先輩経営者や講師、サポーターからの質疑や助言が活発に行われました。

受講者の感想は「イヤイヤ参加しましたが、受講してみたら、目からうろこの連続…」、「リーダーシップを発揮する人、率先して場づくりするメンバーがお互いに励ましあい、声を掛け合う関係ができた」「ピンチを切り抜けるためにもこの学びを活かしたい」「自社の経営をこんなに深堀したことはなく、数字が読めるようになった」等々。今後に向けては「同友会が頼りになる存在だと確信できた」「目標となる先輩経営者をみつけた」などの気づきにこれからの理念実践のための決意が込められていました。

先輩からは「経営者の覚悟や人を活かす経営は、今日が修了ではなく、これからが始まりです」との励ましの言葉が背中を押していました。

（オフィスあるふぁ　青山喜佐子）

各自に贈られた修了盾

修了式での集合写真

## 若手経営者部会「うりずん」
# 自分のトリセツワークショップ研修

稲嶺 光一 氏

八月六日、アイムユニバースてだこホールにて、うりずん勉強会「自分のトリセツ」を開催し、十二名が参加しました。今回のうりずん勉強会では、ブルービー合同会社の稲嶺光一氏（離職予防士）が講師となり「自分のトリセツ」プチ診断体験を行いました。

「ｄマト®」を活用して、自分の属性や思考・行動の特徴を分析し、参加者同士でそれぞれのタイプや考え方を共有しました。直感を大切にする人、データをもとに判断する人。効率を重視する人、人とのつながりを大切にする人――。一人ひとりの違いが見えてくると、「なるほど！」という発見や共感の声が自然と生まれ、会話もどんどん弾んでいきました。

自分の思考パターンや行動の傾向を知ることは、自己理解を深めるだけではありません。相手との違いに気づき、その背景を理解することで、コミュニケーションをより円滑にし、互いを尊重する関係づくりにもつながります。

後半は、レゴブロックを使ったワークに挑戦しました。参加者は思い思いにブロックを組み立て、完成した作品に込めた思いや考えを発表。自由な発想から生まれた個性豊かな作品に、驚きや笑いが広がりました。

普段の会話だけではなかなか見えない、それぞれの感性や人柄に触れられたことも、今回のワークの大きな魅力です。自然と会話が生まれ、会場は終始、和やかで温かな雰囲気に包まれました。

自分を知り、相手を知り、楽しみながら理解を深めることができた今回の勉強会。学びと笑顔が詰まった、充実した時間となりました。今回得た気づきを、これからの仕事や人との関わりに活かしながら、今後も、うりずん勉強会を通じてさまざまな学びを共有していきます。

（㈲友誠　棚原歩美）

集合写真

## ビジネス連携部会「ゆいま～る」8月 ゆいピッチ
# 未来の環境を科学の目で可視化する

髙柳 圭吾 氏

八月二十一日、沖縄産業支援センターにて、ビジネス連携部会「ゆいま～る」八月ゆいピッチを十五名の参加で開催しました。今回の報告者は、㈱沖縄環境科学研究所の髙柳圭吾社長に事業プレゼンをしていただきました。「未来の環境を、科学の目で可視化する」髙柳社長の報告は、この言葉から始まりました。

同社は公的機関向けの環境調査報告書を主軸に、建設コンサルタント、環境計量証明、建築物飲料水検査、新規事業の作業環境測定という四部門を持っています。水質から生物まで調査範囲は広く、分析もフィールドも報告書作成も自社で完結します。

海から山、そして都市まで、沖縄のあらゆる環境問題に調査から対策までワンストップで応える総合力があり、「うちでできないことは県内の同業他社にもできない」と語る自負がそれを裏づけます。社員は役員を除き十名。二十代が中心で、うち五名は環境系の大学・専門学校からの新卒です。県庁退職者や、辺土名高校から役場を経て入社した人材もいます。

印象的だったのは、「事業を一言で表すなら？」という問いへの答えです。髙柳社長は「納得販売業」と即答します。科学的根拠を積み上げ、依頼者に納得を届けることこそが仕事の本質だといいます。かつて一二〇〇万円を取りっぱぐれた経験も、次へつなぐ糧としてきました。

今後は、作業環境測定の事業展開、利益率の高い政策・計画立案業務への注力、開発から維持管理へと移る社会ニーズへの対応を課題に挙げます。「共に、持続可能な沖縄の未来を」「科学の目で、沖縄の豊かさを明日へ」。専門家としての使命がにじむ「ゆいピッチ」でした。

（㈲アジビズ・比屋根拓）

会場全体

# 第31期　同友会大学がスタート！

## 【第1講】
### 小さな島の大きな文化
### ～組踊の舞台はこうして作られる～

神谷 武史 氏

八月十五日、第三十一期同友会大学第一講が、南風原町立中央公民館で開催されました。

講師は　組踊保持者　神谷武史氏で、テーマは「小さな島の大きな文化～組踊の舞台はこうして作られる～」。この記念講演「組踊」は、公開講義で開催され、二百名が参加しました。

沖縄県立芸術大学講師でもある神谷武史氏は、野球少年だった頃、地域に息づく伝統芸能に触れ、その魅力に憧れを抱いたことをきっかけに、舞踊の道へ進みます。

大国に挟まれた琉球は、かつて「針の先」に例えられることもありました。しかし、その小さな島には、海を越えてアジアの国々とつながる豊かな文化が育まれてきました。空手や琉球芸能を通して、神谷氏はその大きな文化のうねりを肌で感じてきたそうです。

「小さな島の大きな文化」という言葉は、やがて神谷氏自身の人生のテーマとなり、琉球芸能への情熱とともに、大きく花開いています。

見て、聴いて、体験する琉球芸能講義では、単に琉球舞踊を解説するだけではありませんでした。「かぎやで風」や雑踊り、創作舞踊の一節を披露したほか、武の舞、島うた、三線などの楽器の音色や特徴についても、実演を交えながら紹介。さらに、舞台ではなかなか見ることのできない「ヒゲの化粧」の実演や、迫力ある獅子舞も披露されました。

舞踊、音楽、衣装、化粧、獅子舞――さまざまな角度から琉球芸能の世界に触れることで、受講生はその奥深さと面白さに引き込まれていきました。

今回は公開講演として開催したこともあり、同友会の受講生だけでなく、地域からも多くの皆さんが参加。時間を忘れて神谷氏の講義と実演を楽しみました。小学四年生の天願きらさんも参加し、「獅子舞がかっこよかった。また、すぐにでも見に行きたい。音楽が感動した」と、目を輝かせながら感想を話してくれました。

小さな島・沖縄には、長い歴史の中で育まれ、今も人から人へ受け継がれている大きな文化があります。その文化を「知る」だけでなく、「見る」「聴く」「感じる」。神谷氏の情熱あふれる講義は、琉球芸能の魅力をあらためて私たちに教えてくれる、同友会大学の幕開けにふさわしい第1講となりました。

（有）アンテナ　石原地江）

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

## 【第2講】
### 実践事例に学ぶ
### 文化を基調とした地域おこし
### ～歴史を知ることで未来をつくる～

平田 大一 氏

八月二十二日、第三十一期同友会大学第二講「実践事例に学ぶ　文化を基調とした地域おこし～歴史を知ることで、未来をつくる～」が、うるま市のあまわりパークおよび勝連城跡にて開催され、二十六名が参加しました。講師には同友会大学でおなじみの南島詩人・平田大一氏を迎え、今回は初となるフィールドワーク形式での開催となりました。

講義の冒頭、あまわりパーク歴史文化施設内のライブシアターにて「勝連おもろさうし 百度踏揚（ももとふみあがり）編」のアニメを鑑賞。続いて、地元の子供たちによる「グスクの祭り」ライブステージショーが披露されました。さらに、平田氏のご厚意によりスペシャルゲストとして歌手のイクマあきら氏が登場。名曲「ダイナミック琉球」を熱唱していただき、会場は感動と驚きに包まれました。

ライブステージ終了後は、平田氏の小学生の息子さん（えいと君）のガイドのもと、勝連城跡を見学。誇らしげにグスクの各所を解説する頼もしい姿に、終始和やかな雰囲気が広がりました。

城跡見学の後は、再び施設内の多目的室に戻り、平田氏による講義がスタート。「地域活性化が私の一生の仕事」と語る平田氏は、未来の主人公である子供たちと大人が一緒になって取り組む地域おこしの重要性を強調しました。

また、自分たちの足元にあるものを大切にし感謝すること、そしてあらゆる環境の子供たちが活躍できる場所を創りたいという熱い想いを語られました。こうした地域への愛の形が、まさに現在のあまわりパークの姿へと結びついています。地域への熱い愛と挑戦の姿勢は、地域密着を掲げる私たち中小企業経営者にとっても、自社の存在意義や今後の地域づくりのあり方を深く再考させられる貴重な学びとなりました。

（㈱フナテック　冨名腰一真）

# 清掃から、設備へ。快適から、安全・安心へ！

クリーン・コネクト㈱は、2024年4月に、島田氏が創業しました。リフォーム業や飲食業、ハウスクリーニング専門店など、多くの現場の経験を活かして、清掃業をメインにしたスタートでした。今、清掃で培った現場力と信頼で、建物全体の快適・安全・安心を追求する総合建物管理企業へと成長しています。

清掃事業では、床やトイレの日常清掃で、ワックス加工など専門機材と技術を用いて蓄積汚れに対応しています。また、その作業手順・点検基準・報告体制を整え、会社として品質を継続管理します。

最も大切にしているのは、品質と信頼です。清掃は、作業が終わった瞬間だけきれいであればよいものではありません。決められた品質を継続し、異常や問題に気づいた場合には、すぐに報告・共有・改善することが重要です。

そのため、現場ごとの作業手順や点検基準を整え、担当者だけに任せきりにせず、会社として品質を管理する体制づくりを進めています。

クリーン・コネクト㈱の強みは、現場との距離が近く、状況の変化に対応しやすいことです。施設ごとに異なる利用状況や汚れ方を確認し、清掃箇所・作業時間・頻度・必要人員を組み立てます。清掃を通して信頼関係を築き、建物の困りごとを最初に相談していただける会社を目指しています。

今後は、日常清掃・定期清掃の品質をさらに高めながら、建物管理に関わるサービスの幅を広げていきます。清掃の現場では、照明や電気設備の不具合、防災設備の点検など、清掃以外のご相談をいただくことがあります。

建物を快適に保つには、きれいにするだけでなく、設備が正常に動き、万が一の際に人の安全を守れる状態であることが重要です。そこで、電気設備業と消防設備業への展開を視野に入れています。

島田氏は、地域に必要とされ、長く信頼される企業を目指しています。「清掃の先にあるのは、そこで働く人、暮らす人、施設を利用する人の快適さと安心です」と島田氏。クリーン・コネクト㈱は今後も、一つひとつの現場に誠実に向き合い、目の前の仕事を確実に積み重ねることで、清掃業に加え、電気設備・消防設備の分野にも挑戦し、建物の快適性と安全性を総合的に支えられる会社へ成長していきます。

（カラオケ同友会　島尻裕巳）

島田 優 氏

**《会社概要》**

**クリーン・コネクト㈱**

**CEO 島田 優 氏**

〈サンライズ支部〉

所在地／西原町内間111-2城間店舗102
TEL／070-3803-8534
事業内容／清掃業（ハウスクリーニング、美装工事、エアコン清掃、公共の清掃）

健康企業を目指そう!!

スマホアプリで健康チャレンジ

みんなでポイ活

# JOY WALK

## マイレージ・チャレンジ

職場の同僚と! サークルの仲間と! 家族一緒に!

# 参加者大募集

たくさん歩こう!

参加無料

沖縄県民の健康づくりのために開催する
オンラインウォーキング大会です。
スマホアプリで日々の歩数や歩行距離を記録し、
職場の仲間や、家族といっしょに、チームで競い合いながら
健康増進に取り組むことができる楽しいイベントです。
社内コミュニケーションの活性化や健康経営の推進に
役立ててみませんか。

**1st ステージ開催期間**
2026. 11/1(SUN)-12/16(WED)

**2nd ステージ開催期間**
2026. 12/17(THU)-2027. 1/31(SUN)

※どちらかのステージのみ、または両方、どちらでも参加いただけます。
※成績発表は各ステージごとに行います。

JOY WALK マイレージ・チャレンジ
エントリーやイベントの詳しい情報はこちら!!

## 本イベント参加の流れ

企業・団体のみなさまは、まずは
企業・団体のエントリーからお願いします!

豪華景品当たります!! 詳しくはHPへ!

**STEP 1**
企業・団体でのエントリーは、個人のエントリーとは別に必要です。

**STEP 2**
スマホでアプリをダウンロード!

SPORTS TOWN WALKER

**STEP 3**
歩いてポイントGET 健康増進!

その他、景品もご用意!!

主催／沖縄県

お問い合せ
JOY WALK マイレージ・チャレンジ事務局（株式会社サーベイリサーチセンター沖縄事務所内）
0120-656-652（受付時間：月～金 9:00～17:00）

健康づくりを楽しもう
スポーツタウンWalker

Download on the App Store
Google Play で手に入れよう

# 人と自然の明日を創造する

わが社のポリシー 第337回

## 霧が晴れてきた

約束の時間に訪ねると、川満社長は「経営指針成文化の実践の手引き」をテーブルに置いて待っていました。

62 期経営指針作成塾を修了した感想は「霧に覆われていた遠くの山の輪郭が、少しずつ見えてきたような感じで、気持ちも楽になってきました」

平成 4 年に父が創業した会社は、今年で 34 期目を迎えました。

## 県庁職員から中小企業の社長へ

川満社長自身は、もともと県庁職員で、父から会社の将来を相談されたことが転機になりました。「そろそろ会社に来ないか」と。

当時は県庁で班長を務めていて、年度途中で退職することには、一緒に働く同僚への申し訳なさもあり、約 2 か月悩んだ末に出した答えは、「親孝行」でした。

退職した翌月の令和 4 年 8 月に会社へ入社。その年の 11 月には代表取締役に就任しました。

いきなり経営者となり、それまでとはまったく違う組織体制、役所と民間業界の慣習・文化の違い、経営判断など、分からないことばかり。「何とかしなければ」という思いが強く、心拍数が上がる日々が続きました。県主催の後継者育成塾にも参加し、経営について学び始めました。

## 何のために経営しているのか

会社を経営するうえでは、日々の業績が最大の関心事ですが、少しずつ状況が落ち着き、視野が広がってくると、「そもそも、何のために経営しているのだろう」と考えるようになりました。

ちょうどその頃に会社訪問で出会ったカルロス副代表の勧めもあり、中小企業家同友会へ入会。経営について、自分なりに断片的に考えてきたことを整理したい。会社の理念やビジョンの土台をしっかり固めたいとの思いを抱いていました。

創業時から会社には「人と自然の明日を創造する」というキャッチフレーズがありましたが、それを経営理念として社内で共有していませんでした。

そんな時に目にしたのが「経営指針作成塾」の案内。「自分一人で考えるのではなく、伴走してもらいながら経営について考え、整理できる」という言葉に魅力を感じました。

社員旅行

お仕事体験フェア

北大東漁港

川満 秀樹 氏

幸い、長年勤めてきた社員が取締役に就任したタイミングでもあり、経営側の考えを一緒に学びたいと、2 人で経営指針作成塾を受講しました。

## グループメンバーから学んだ

作成塾のグループ討議では、メンバーの明るさや、自分にはない考え方、そして「真似したい」と思える姿勢に触れることで、刺激を受け、「心が迷子になったとき助けられました」

経営者として何を目指すのか。会社をどの方向へ進めていくのか。仲間との対話を重ねる中で、少しずつ自分の考えが整理されていきました。

**【使　命】**
**人と自然の明日を創造する**

**【目指す将来像】**

**1．私たちの未来**
確かな技術と多様な個性を掛け合わせ、社員一人ひとりが誇りと喜びを持って働き続けられる会社となる。

**2．社会との未来**
人と自然が調和する未来づくりを先導し、地域から信頼され続ける会社となる。

## 社員とつくる 10 年ビジョン

理念については、自分自身の考えをしっかり反映したいと考える一方、10 年ビジョンは、社員と意見を交わしながら作成する計画です。社員の働く喜びと豊かな暮らしがあってこそ、会社の発展や社会への貢献につながる。そんな経営を目指しています。

## 自分自身と向き合う時間

自然と触れ合うことが好きで、キャンプやトレイルランニングにも取り組み、そこで知り合った仲間たちと県外へ出かけることもあります。仕事から離れて心を落ち着ける時間が、経営者としての自分を支える大切な時間にもなっています。

## 同友会で得たもの

同友会の最大のメリットは、「ベクトルの合う経営者と意見交換や議論ができること」です。

経営指針作成塾を終えた今、川満社長は「経営指針作成塾はぜひ受けたほうがいいですよ、私自身も、一度だけではなく、定期的に受けたいと思っています」

**《会社概要》**

**㈱大栄コンサルタント**
**代表取締役　川満 秀樹 氏**
〈浦添てだこ支部〉

住　所／浦添市字港川412-4
ＴＥＬ／098-876-3373
事業内容／建設コンサルタント（土木設計、測量、地質調査，磁気探査、環境調査、観光プログラム活性）